

## 卒業 25 年記念事業実行委員総決集会

1. 日 時： 2009 年 11 月 6 日(金) 19 時 00 分～21 時 00 分
2. 場 所： 「サリュ コパン」 東京都中央区日本橋 3-7-20 ディーアイシービル
3. 出席委員内訳：  
経済学部 21 名、商学部 15 名、法学部法律学科 15 名、法学部政治学科 8 名、文学部 19 名、理工学部 23 名 合計 101 名（2 次会 60 名）
4. 報 告：卒業から 20 年目にあたる 2005 年、2 回目の当番年として参加した連合三田会大会終了後、共に活動した委員たちは 5 年後に迫った塾の伝統である恩返しの活動＝卒業 25 年記念事業の実行委員会を設立しました。塾ご担当者、先人の諸先輩三田会双方からのご指導の元、粛々と現在まで同窓会としての組織作りを行って来ました。そしていよいよ記念事業の活動年となった本年 5 月には、記念事業キックオフ説明会兼同窓会を開催。その後、多くの同期たちを実行委員に加え、事業活動を加速してから早 5 ヶ月。委員たちは塾と共同で行う名簿整備をはじめ事業募金活動や記念大同窓会準備など、様々な活動に奔走してきましたが、記念大同窓会（2010 年 3 月 22 日）と大学卒業式招待会（2010 年 3 月 23 日）というイベントまでを活動のゴールとすると丁度折り返し地点。学年全体としての活動を進める実行委員たちにとっては正に今が正念場。何としても「社中の協力」のもと、同期一丸となりこの記念事業を成功させるべく、5 年前初めて同窓会委員会を開催した「初心のこの地」で、実行委員総決起集会を開催致しました。  
時計の針が 19 時を回る頃、集結した全委員に対し、これまでの活動への感謝の言葉から語りはじめた市瀬実行委員長。最後には 126 三田会の合い言葉である「いつもそばにいる友。いつもそこにある心。」が会場中に響き、総決起集会は幕を開けました。開会早々から会場内は日頃の名簿整備活動や事業募金活動をこの日ばかりは忘れ、盃を酌み交わし肩を組み合う多くの委員たちで溢れました。そんな熱気あふれる会は中盤、126 三田会恒例の演芸も織り交ぜ和やかな雰囲気。いよいよ終盤の「若き血」と「慶應讃歌」では涙する委員も……。最後は我等が應援指導部指揮によるエールと、宮尾学年代表の「社中の協力のもと、同期全員笑顔で大同窓会と卒業式で会いましょう！」の言葉で中締めとなりました。  
(尚、会場を変えた行われた二次会にもこの熱気そのままに、夜遅くまで多くの委員が親睦を深める会となりました。)

以上

(文責：濱田竜哉)